第３章　将来像とまちづくりの目標及び戦略

１．対象区域のまちづくりの意義と将来像

対象区域では、名鉄知多武豊駅・ＪＲ武豊駅周辺という立地条件を活かしながら、第６次武豊町総合計画で位置づけた都市拠点※1・公共交流拠点※2を含めた一体的なまちづくりが必要です。

そのためには、第６次武豊町総合計画に即しつつ、対象区域の特徴や課題を踏まえ、武豊町の中心となるまちづくりを進めていくことが重要です。このため、町内外から人々が集い、交流する場の創出に向けたまちづくりを進めます。さらに、最新の技術を取り入れながら、武豊町の次世代を担う持続可能なスマートタウン（デジタル技術等を活用して利便性・快適性を高めるまち）の創出を図ります。

上記を踏まえ、駅西グランドデザインの将来像を以下のように設定します。

第６次武豊町総合計画
スマイルビジョン TAKETOYO　まちの将来像

心つなぎ
みんなでつくる
スマイルタウン

駅西グランドデザイン

将 来 像

人が集い・交流する　夢があふれるみんなのスマートタウン

“豊”かさ育む　次世代（ネクスト：ＮＥｃＳＴ）エリアの創造

- Ⓝ：new/next　先進性
- Ⓔ：ecofriendly　環境・省エネ
- ⓒ：communication/comfort　人の交流・快適な住環境
- Ⓢ：smart/sustainable/smile/station　知的集積・未来に続くにぎわい、笑顔の交差する駅
- Ⓣ：terminal　交通利便性・集積地

ＮＥＳＴには鳥の巣という意味もあります。
（人が育ち、住み続けられるまち）

用語解説

※1 都市拠点：1頁参照、※2 公共交流拠点：1頁参照

2．駅西グランドデザインのまちづくりの目標

対象区域における課題の整理を踏まえ、まちづくりの目標を以下のように定めます。

目標① 心地よい時を過ごすことができ、武豊の『玄関口※6』となるワクワクするまち

対象区域は、特急停車駅である名鉄知多武豊駅を始めとする鉄道駅が整備され、通勤・通学等の利便性が高いまちの玄関口※6です。

対象区域の特性を活かし、町内外から訪れる人がそれぞれ心地よい時間を過ごすことをイメージすることができ、好印象を持ってもらえるワクワクするまちを目指します。

目標② 様々な人がまちの魅力を感じながら、快適に、楽しく暮らせるまち

対象区域は、商業施設や公共施設が立地しており、居住者の居住継続意向は高い値となっていますが、空き地や青空駐車場が多く点在するとともに、建築物の更新が進んでおらず、都市のスポンジ化※15が懸念されます。

生活に便利な施設が立地している状況を活かしつつ、土地の有効活用を促すことで、さらなる地域の魅力や生活利便性を向上し、住んでいる人が便利な日常生活を送ることができ、まちの魅力を感じながら楽しく暮らし続けることができるまちを目指します。

目標③ 持続可能な未来に向けて武豊を先導する新しいチャレンジをしていくまち

本町はゼロカーボンシティ宣言都市として、将来にわたって健康で安心して暮らすことができる環境を次世代へ引き継いでいく取組を推進する必要があります。

町の中心として、持続可能なまちづくりに向けて、町を先導する新たなチャレンジを行うまちを目指します。

用語解説

※6 玄関口、まちの玄関口：８頁参照
※8 ウォーカブル：８頁参照
※15 スポンジ化（まちのスポンジ化）：32 頁参照
※23 カーボンニュートラル：温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを指します。

３．駅西グランドデザインのまちづくり戦略

まちづくりの目標を実現するためのまちづくり戦略を以下のように定めます。

まちづくりの目標①

心地よい時を過ごすことができ、武豊の『玄関口』※6 となるワクワクするまち

戦略①

多くの人が集まる駅周辺のにぎわいを創出するまちづくり

・対象区域は名鉄知多武豊駅やＪＲ武豊駅が立地し、町内外から多くの人が集まるため、まちの『玄関口』※6 となる魅力的な市街地の形成を図ります。
・多くの人が集まるポテンシャルの高さを活かして、駅周辺で長く過ごしてもらうことで、にぎわいの創出を図ります。

戦略②

町民への公共サービスが充実するまちづくり

・公共施設の老朽化に伴う更新・再配置にあわせて、町全体からアクセスしやすい場所への公共機能の集積を進めます。
・住民が快適に過ごせる公共施設の配置を計画し、効率的な公共サービスを提供できる体制の整備とともに住民同士の交流の活性化を図ります。

まちづくりの目標②

様々な人がまちの魅力を感じながら、快適に、楽しく暮らせるまち

戦略③

通勤・通学や買物が便利で、良好な住環境で暮らせるまちづくり

・通勤、通学が便利であるとともに、買物ができる商業施設の立地する便利な環境を活かし、空き地・空き家等を有効活用した多様な世代の定住促進を図ります。
・対象区域内を公共交通、自家用車、徒歩、自転車等で安全で快適に移動できる環境整備を図ります。

戦略④

歩いて武豊の魅力を体感できるまちづくり

・居住者や訪れた人が、イベントに参加したり、散策して魅力を体感できるような、歩いて楽しめるウォーカブル※8 な空間の整備を図ります。

まちづくりの目標③

持続可能な未来に向けて武豊を先導する新しいチャレンジをしていくまち

戦略⑤

新しいことにチャレンジするまちづくり

・町の中心として、官民で連携しながら最新技術の導入の検討やカーボンニュートラル※23 の実現に向けた新たな取組に挑戦し、町全域への波及を図ります。

戦略⑥

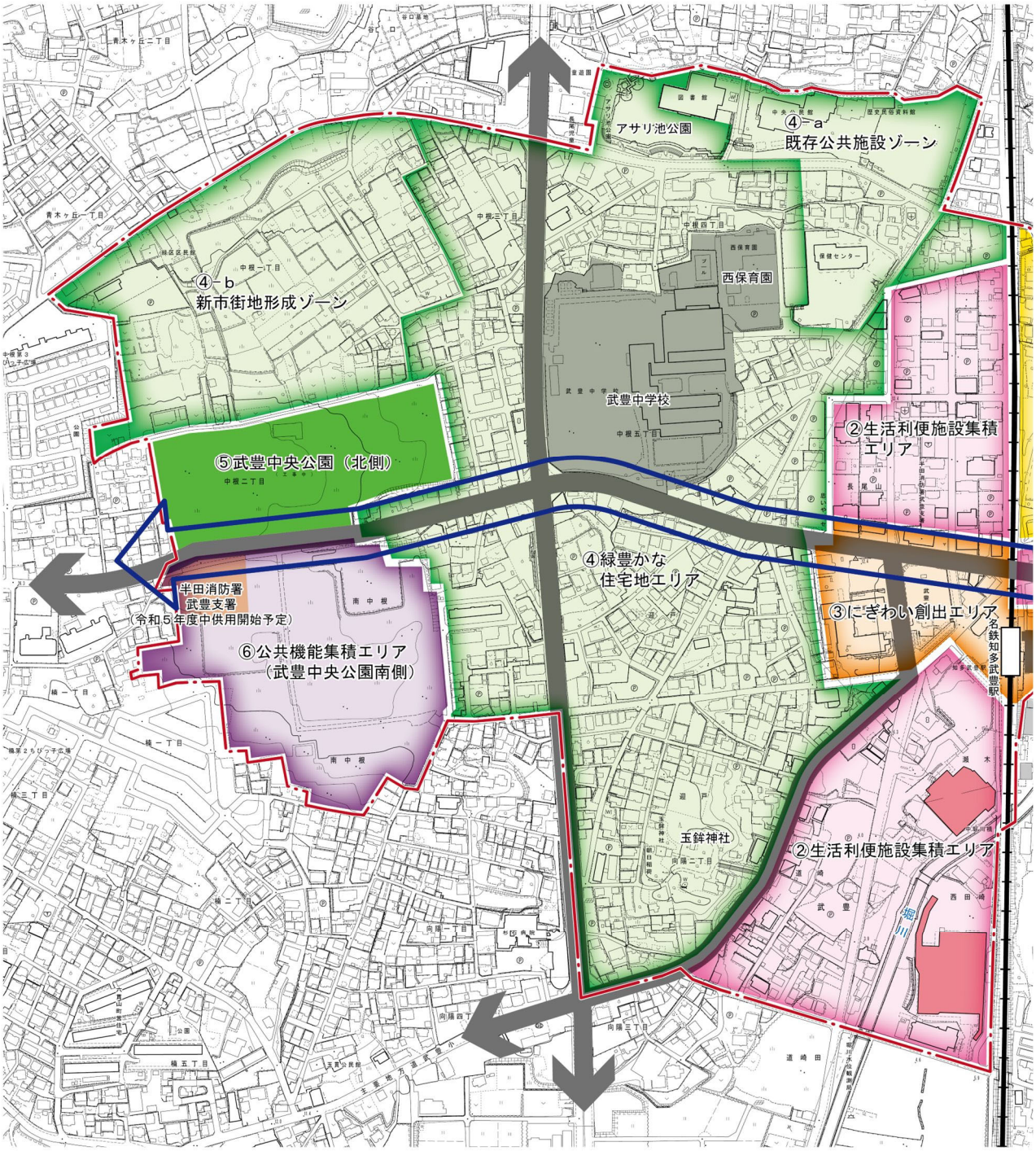
災害に強いまちづくり

・対象区域の住民のみならず全町民が、今後も安全で安心して住み続けられるように、防災対策の強化・充実を図ります。

4．駅西グランドデザインのまちづくり構想図

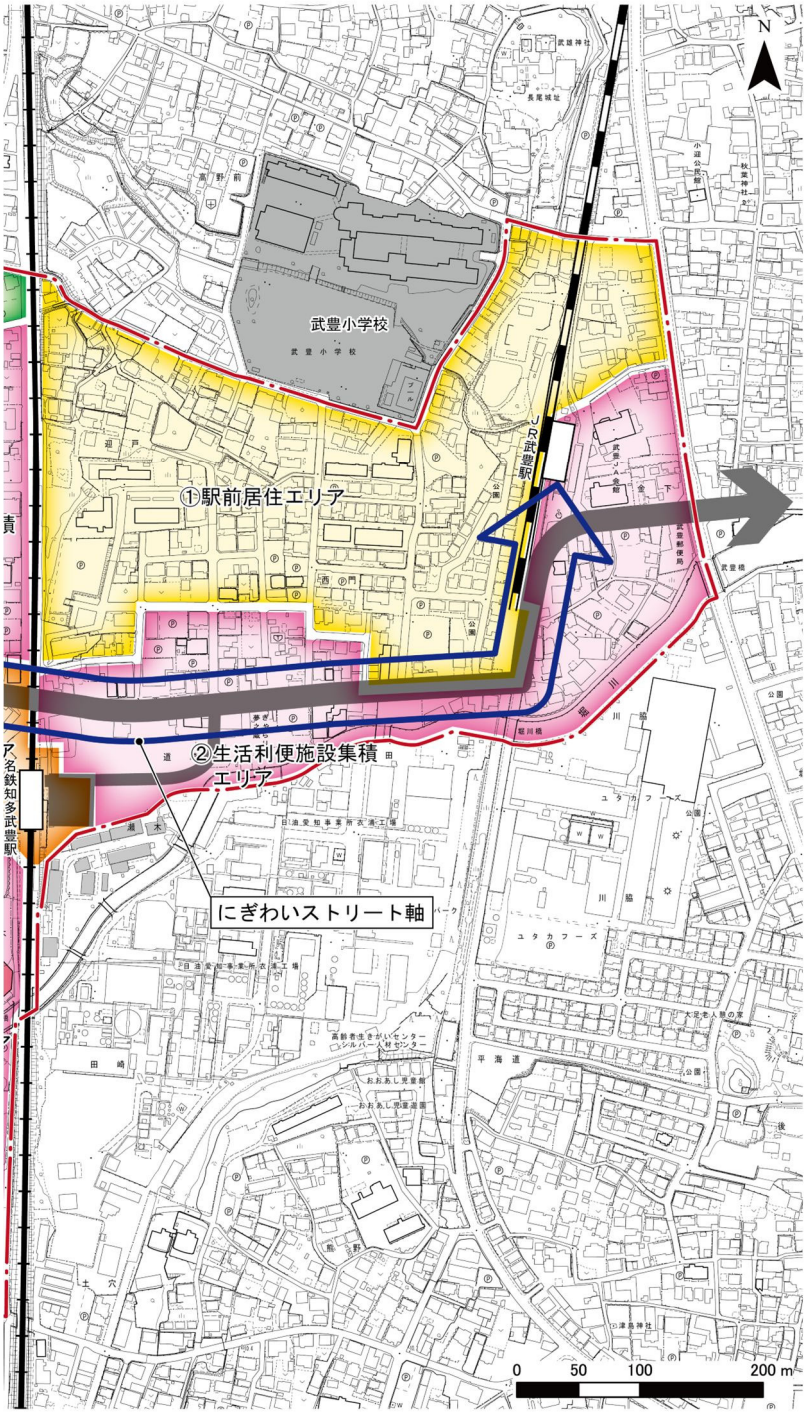
まちづくり戦略を踏まえ、まちづくり構想図を以下のように設定します。

図表 52　まちづくり構想図



用語解説

※2 公共交流拠点：1頁参照
※8 ウォーカブル：8頁参照



①駅前居住エリア
多様な世代の居住ニーズに対応した戸建住宅・共同住宅等が立地するまちなか居住エリア

②生活利便施設集積エリア
生活利便施設が充実し、地域住民を始めすべての住民の便利で快適な暮らしを支えるエリア

③にぎわい創出エリア
町内外から多くの人が集い、多様な交流が生まれる名鉄知多武豊駅を中心とするにぎわいあふれるエリア

④緑豊かな住宅地エリア
ａ．既存公共施設ゾーン
ｂ．新市街地形成ゾーン
緑豊かで環境に配慮した戸建住宅等が立地する住宅地エリア

⑤武豊中央公園（北側）
住民が集うことができ、防災機能を有する公共交流拠点※2の核となる公園

⑥公共機能集積エリア
（武豊中央公園南側）
役場庁舎を含む公共施設が集積し、様々な目的で住民が集い、交流が育まれるエリア

主要道路
対象区域内外におけるネットワークを形成する主要な道路

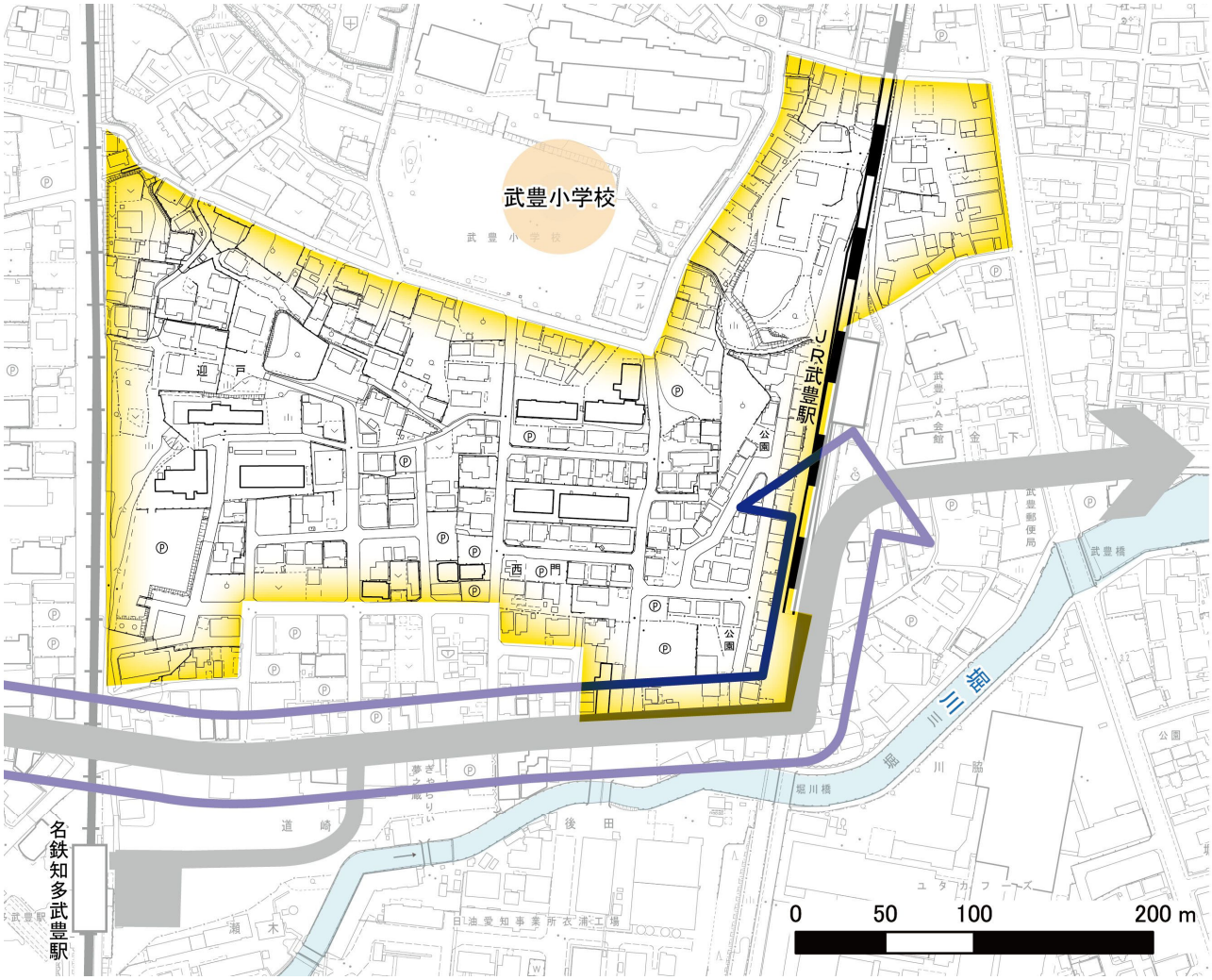
にぎわいストリート軸
名鉄知多武豊駅及びＪＲ武豊駅をつなぎ、沿道に買物・飲食・サービス施設が充実するエリア
また、ウォーカブル※8なまちづくりが進められ、歩行者が歩くことが楽しくなるエリア

①駅前居住エリア

駅前居住エリアは、名鉄河和線とＪＲ武豊線の間の鉄道駅の利便性に優れたエリアです。ＪＲ武豊駅西側には比較的新しい戸建て住宅があり、公園の整備も進められ、住宅地が形成されています。一方、畑や青空駐車場等の都市的低未利用地が点在している状況があります。

駅前居住エリアにおいては、名鉄知多武豊駅及びＪＲ武豊駅の利便性の高さを活かし、都市的低未利用地を有効活用しながら武豊小学校も近いことから戸建住宅・共同住宅等の立地を促進する、便利な駅前居住ができるエリアとして位置づけます。

図表53　駅前居住エリア

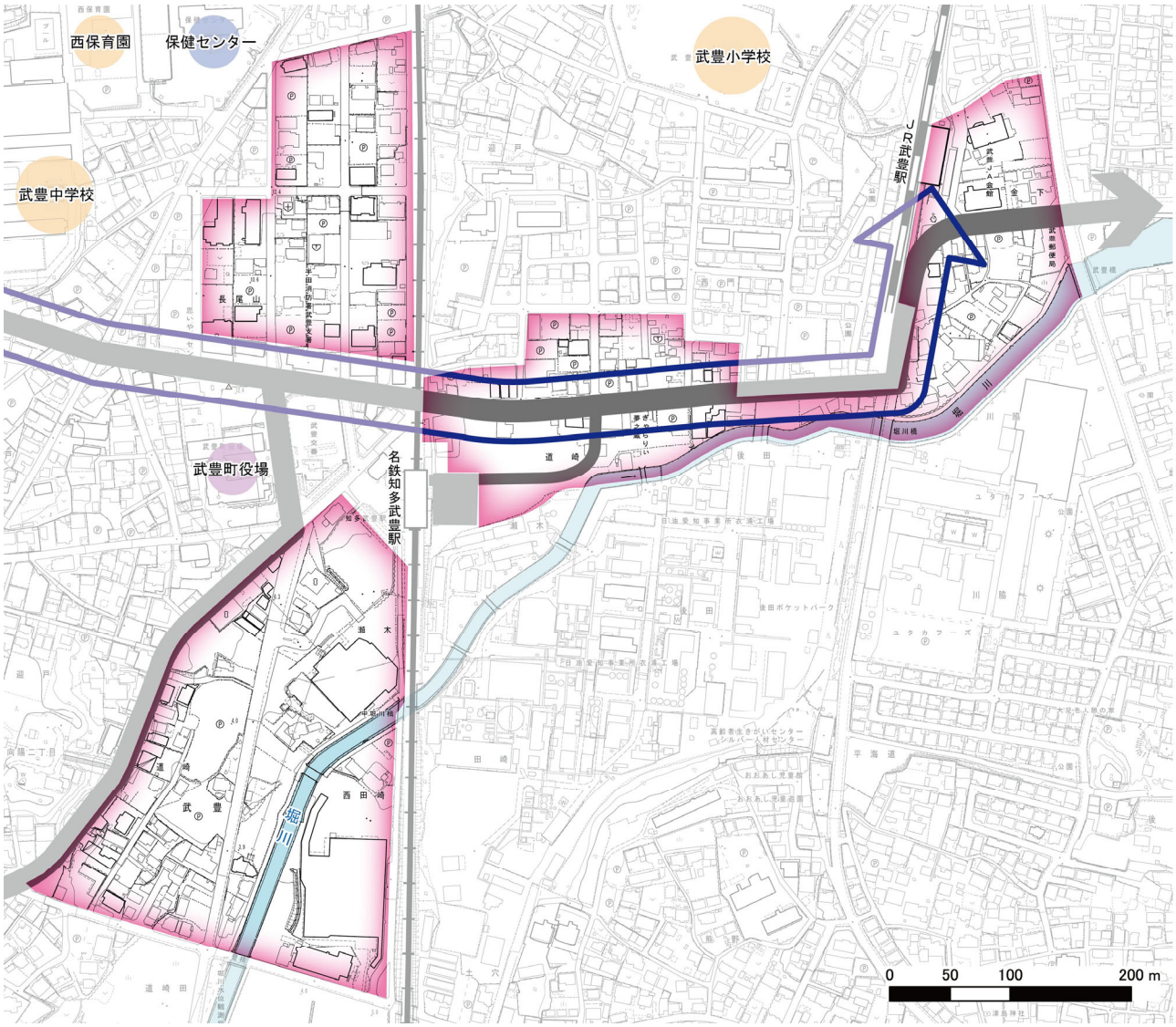


②生活利便施設集積エリア

生活利便施設集積エリアは、日常的な買物や飲食等ができるスーパー等の店舗が複数立地しています。アンケート調査結果からは、このエリアを中心とする将来のまちづくりについて「日用品の買物に便利なまち」や「飲食を楽しめるまち」への住民ニーズが高く、生活利便施設のさらなる充実が必要です。

生活利便施設集積エリアにおいては、生活利便施設が充実し、地域住民を始めすべての住民の便利で快適な暮らしを支えるエリアとして位置づけます。

図表54　生活利便施設集積エリア

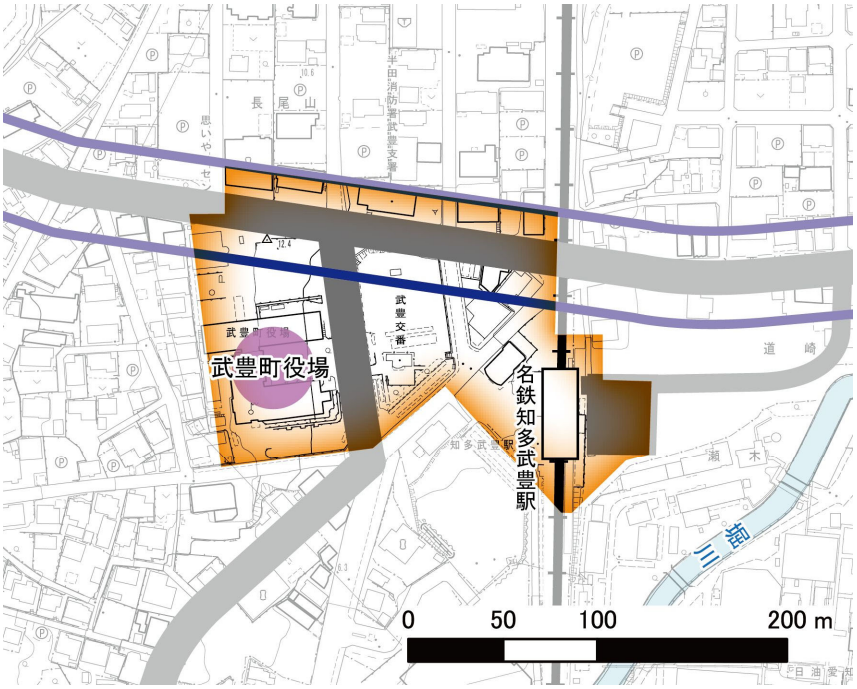


③にぎわい創出エリア

にぎわい創出エリアは、鉄道利用者が最も多い名鉄知多武豊駅の西側に隣接し、駅利用者の多くが駅西口を利用することから、にぎわい創出の観点においてポテンシャルの高いエリアです。また、エリア内には役場庁舎敷地を始め町の所有する公共用地があり、公共空間を活用した取組も期待されます。

にぎわい創出エリアにおいては、名鉄知多武豊駅を中心とする町内外からの多くの人が集い、多様な交流が生まれるシンボリックな、にぎわいあふれるエリアとして位置づけます。

図表55　にぎわい創出エリア



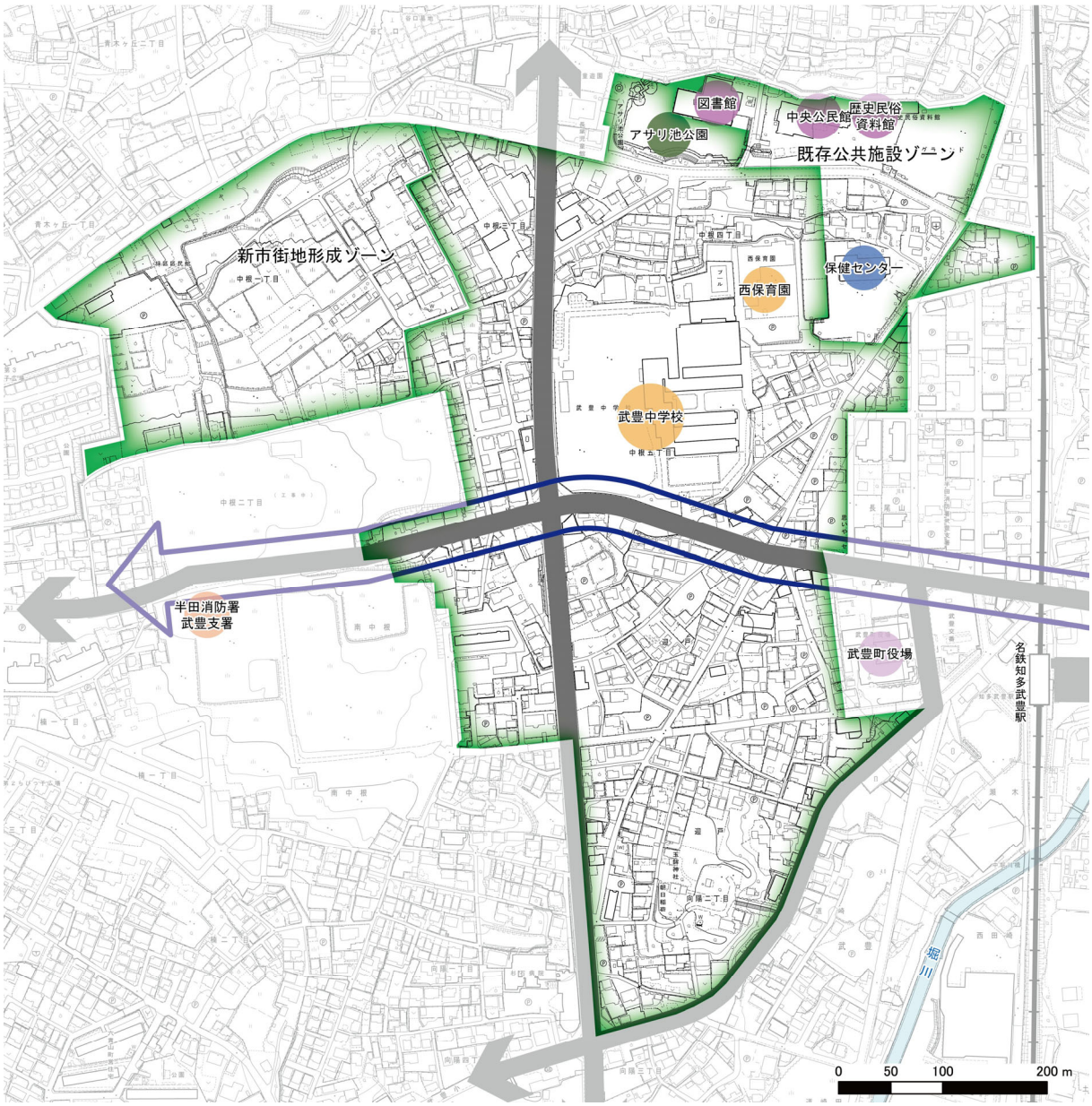
④緑豊かな住宅地エリア

緑豊かな住宅地エリアは、既存ストック（今ある資源）としての生垣等のある戸建住宅が主体の住宅地となっており、緑豊かな住宅地の環境を維持していくエリアとして位置づけます。

また、エリア内の図書館、中央公民館、歴史民俗資料館、保健センターが立地するゾーンを既存公共施設ゾーンとし、公共公益サービスを住民に提供するゾーンとして位置づけます。

さらに、武豊中央公園北側一帯の市街化調整区域となっているゾーンについては、公共交流拠点※2に隣接する立地を活かし、緑豊かで環境に配慮した新たな住宅地の整備を検討する新市街地形成ゾーンとして位置づけます。

図表56　緑豊かな住宅地エリア



用語解説

※2　公共交流拠点：1 頁参照

⑤武豊中央公園（北側）

武豊中央公園（北側）は、地域住民が集い憩うことができる公園であり、また、高台に位置しており、防災面でも有利なことから、かまどベンチやマンホールトイレ等、防災機能を有する公園として整備が進んでいます。

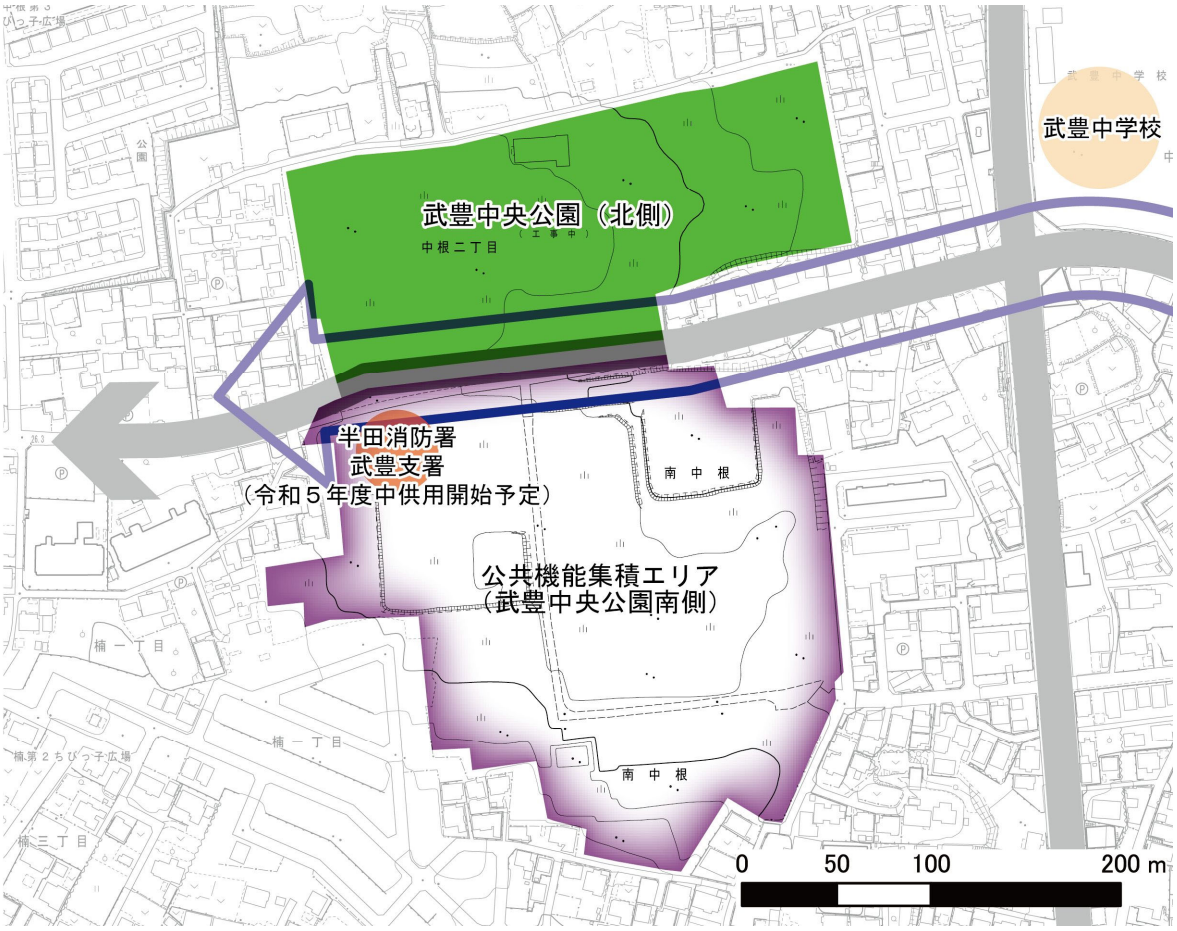
武豊中央公園においては、住民が親しみをもって利用ができ、災害時には防災機能を備える公共交流拠点※2の核となる公園として位置づけます。

⑥公共機能集積エリア（武豊中央公園南側）

公共機能集積エリア（武豊中央公園南側）は、（都）武豊港線の南側に接するエリアであり、本町の最上位計画である第６次武豊町総合計画では武豊中央公園（北側）とともに公共交流拠点※2に位置づけられています。エリア内には、半田消防署武豊支署が先行して移転する予定です（令和５年度中供用開始予定）。

公共機能集積エリアにおいては、役場庁舎を含む公共施設が集積し、様々な目的で住民が集い、豊かな交流が育まれるエリアとして位置づけます。

図表57　武豊中央公園・公共機能集積エリア



用語解説

※2 公共交流拠点：1頁参照